

サバイバル日本語の教材開発と授業実践

林里香・佐藤尚子

要旨

千葉大学国際教育センターでは、2009年度前期より、サバイバル的な日本語を学ぶクラスとして「日本語 101」を開講している。研究活動に忙しく、日本語学習に多くの時間をとれないが、日本語を学習したいという受講希望者等のニーズに応えるためである。この日本語 101 の開講に当たり新たに必要性の高い語彙と文法項目を抽出した日本語教材『にほんご』（私家版）を開発した。本稿は、日本語 101 のためのカリキュラムと教材の開発および2009年度に行われた授業実践（前期・後期）についての報告である。

1. はじめに

2009年度前期より千葉大学国際教育センター（以下、国際教育センターとする）では、日本語未習者のためにサバイバル的な日本語を学習する「日本語 101」（以下、日本語 101 とする）を開講している。このクラスは、週2コマ（1コマは90分）、半期30コマで大学のキャンパスと日本での生活に必要な日本語を中心に学ぶことを目的としている。そのため、既存の教科書を使用するのではなく、筆者2名と小林佳代子氏（国際教育センター非常勤講師）によって新たに教科書『にほんご』（私家版）を開発し、それを使った授業を行っている。週2コマの授業は、それぞれ1コマずつ佐藤と林が担当した。

本稿では、縫部（2001）の3領域（情意的領域、認知的領域、相互作用的領域）の実践を可能とする教科書『にほんご』の開発と、教室内のインターアクションによって、教室が「you 世界」（佐伯 1995）へ変容したことを報告する。

2. ニーズ分析

学内には、日本語を母語としない外国人留学生⁽¹⁾が1068名在籍している（2010年5月1日現在）⁽²⁾。その中で、研究活動を目的として在籍している研究生や研究科に所属しているほとんどの大学院生は、日本語クラスを履修する義務はなく、単位を取る必要もない。また、学内には、日本語を使用せずに研究活動が可能な分野や領域があり、このような分野や領域で研究活動を行っている研究者もいる。彼らにとって日本語学習は必須ではない。しかし、日本語学習に意欲を示し、クラスに参加する学習者（以下、学生とする）がいる。彼らの動機としてあげられるのは、ゼミ仲間などとの交流や日本文化や日本語に対する興味などである。しかし、研究活動に忙しく日本語学習にあまり時間をとることができない学生からは、同行している家族のためにも、生活に必要な日本語に限定して学習したいという希望も聞かれた。

このようなサバイバル的な日本語を学習するクラスのニーズは、必ずしも学生側からだけではない。来日直後の留学生や初級の日本語学習者と接する機会のある事務職員に対するヒアリングから、「難しい話はできなくてもいいが、日本語で身分や所属、指導教員の名前を言える」ことが重要であることも明らかになった。

しかし、これらのニーズに対して、既存の日本語クラスでは対応が難しく、新しいクラスの開講が必要となった。週2回、半期60時間という限られた時間数の中で日本語を学習する場合、語彙や文法項目など、扱えるものは限られている。そのため、新たなカリキュラムとそれにそった教材の開発が必要となった。

3. 先行研究・既存教材の検討

教材開発の際の話し合いの過程で、以下の先行研究と既存の教材の検討を行った。

縫部（1991）は、コミュニケーションの出発点として、自己を他者に理解してもらうために自己を開示することが必要であると指摘している。外国語学習においては以下の3領域を授業に取り入れることの必要性を述べている。

- 第一 自己の真実について表現すること（自己開示 self-disclosure）
…情意的領域（affective domain）
- 第二 それを互いに他者に伝達しあうこと（コミュニケーション）
…認知的領域（cognitive domain）
- 第三 人間的ふれあい（インターアクション）
…相互作用領域（interactive domain）
(縫部 1991 : 51)

縫部は、上記のように3領域を提示しているが、外国語を学習する学習者のレベルについては言及していない。これらの3領域の実現は、学習が進むにつれて容易になると考えられる。しかし、初級の段階から実現させるためには、特別な手当が必要である。

また、佐伯（1995）は、「日本語読み書き学級」が、互いが三人称的にかかわっている世界である「they 世界」から相互に二人称的關係でかわり、互いが相手を「理解（appreciation）」しあうような世界である「you 世界」へ変容する過程の事例を取りあげている。そこでは、日本語読み書き学級が、モテバリ君の「サブレ分配事件」をきっかけに、学級が情報源を常に教師が持つ「教師から学ぶ」場から、「相互理解と協力」の場に変容していることが述べられている。それは、これまで教師側にあった情報源が、学級生側に移り、教師は学級生が「語る」自己表現を支援するために日本語を教えることを中心とした授業を行うようになったからだと考えられる。

これらの先行研究の検討から、新たに開発する教科書では学習者が自分自身を語れる力をつけることを目標とし、「自分を語る」ことが可能な教材開発をすることにした。

教科書開発のために、まず、既存の教科書の検討を行った。

日本語初級を短時間で学習することを目的に作られた教科書には『Japanese For Busy People I』（以下、『JBP1』とする）、『日本語 90 日』などがある。また、『クリスの和歌山大学留学』（以下、『クリス』とする）のように和歌山大学に留学した留学生を主人公とし、和歌山大学に関係のある留学生に特化した教科書を作成している大学もある。これらの教科書の検討を行った理由は、『にほんご』でもこれらの教科書と同様に日本語未習者を対象としており、短時間で学習を目的としているからである。表 1 は、それぞれの教科書の特徴と『にほんご』の特徴をまとめたものである。

表 1 教科書の特徴比較

教科書	『JBP1』	『にほんご 90 日 1』	『クリス』	『にほんご』
表記	かな ローマ字 英語	漢字かなまじり文	漢字かなまじり文	漢字かなまじり文
分かち書き	○	×	○	○
ルビ	×	△未習語彙のみ	○	○
新出語彙	英訳付き	語彙＋イラスト	×	英訳付き
書き込み式	×	○	△	○
学習時間	30 課 100 時間	1 課＝180 分 30 課 100 時間	11 課 不明	12 課 60 時間
関連副教材	×	漢字ノート	×	×

『JBP1』は導入部の会話と語彙がかなとローマ字表記で並記され、英語の訳がついている。練習問題などはローマ字表記のみで提示され、英語による解説が多いことが特徴である。

『日本語 90 日』は「教える側にとっては何より使いやすく、学習者にとっては何よりわかりやすいという教科書がほしい」というコンセプトをもとに作られた教科書である。授業中に教師が説明する時の板書に似たものが掲載されていることが特徴である。漢字かなまじり文で、漢字にはルビがあるが分かち書きではない。また、学習者の理解を助けるために挿絵が多く取り入れられている。

『クリス』は、和歌山大学国際教育研究センターが 2008 年 3 月に発行したものである。初級日本語のテキストと和歌山を理解するための歴史紹介や観光案内が含まれていることが特徴である。そのため、留学生だけでなく、大学を訪れる訪問者や研修者に対する大学紹介や和歌山紹介のパンフレットとしての使用も見込まれて製作されている。絵や写真が

多く使われ、カラーで印刷されている。初級日本語の部分は、それぞれの課が和歌山大学と和歌山で留学生が実際に経験すると考えられる場面で構成されている。また、11 課のそれぞれの課では、場面で交わされる会話がモデルとして掲載され、その中で使われている文型が用例として出され、練習問題へと続いている。留学生が日常生活の中で経験する実際場面における会話が多く取りあげられていることは、大きな特徴である。そのほかにも、動詞の活用の提示に大きな特徴がある。動詞は、まず第 2 課で動詞のます形から辞書形が導入されている。続いて、第 3 課では可能形、第 5 課ではて形、第 6 課ではない形の作り方が導入されている。

これらの教科書を検討し、60 時間という限られた時間で学習する学習者のための教科書を作成するためには、限られた語彙と項目の選定が最も重要であると考えた。学習者が「自分自身を語れる力」を身に付けることを目標とし、個人情報扱いながら「自分を語る」ことを可能とすることを基準として選定することにした。

4. 教材開発

教科書『にほんご』を開発するために、文法項目と語彙の選定を行った。国際教育センターの初級クラスでは『みんなの日本語』を使った授業が行われていることから、文法項目と語彙の選定については『みんなの日本語』と比較しながら例をあげて説明する。以下に、『にほんご』全体の構成を説明し、文法項目、語彙をどのように選定したかを報告する。

4.1 教科書『にほんご』の構成

表 2 は『にほんご』の構成と「会話」、「書きましよう」の内容を示したものである。『にほんご』は、12 課あり、useful expression や索引を含めると 124 頁になる。漢字かな交じり文、分かち書きで表記し、漢字にはルビを振っている。

課によって頁数が異なるのは、「会話」または「書きましよう」の分量に差があるからである。各課は、「文型」「あたらしいことば」「練習」「会話」「書きましよう」（第 2、3、4、9 課を除く）「Reference Words & Information」「文法解説」の 7 部から成る。表 3 は、第 1 課の詳しい構成である。

「文型」では、その課で学習する学習項目を例文で示している。「あたらしいことば」では、その課で学習する新出語彙をひらがなと漢字で示し、英訳をつけている。新出語彙の数は、課によって異なるが、全体で 312 語である。これは、「あたらしいことば」として提示されているものに限られ、頁の欄外に英訳つきで示している語彙は含まれていない。頁の欄外には、語彙だけでなく、表現についても英訳つきで示している場合がある。「練習」は、学習項目ごとに例を示し、練習用の入れ替え語彙を示している。「会話」では、学生が日常生活の中で、実際に遭遇する場面のモデル会話を提示している。練習用には、入れ替え語彙を提示するのではなく、学生が自分の実際場面について書き込むことができ

表2 『にほんご』の構成

課	タイトル	会話	書きましょう	頁数
	Useful expression			2
	丁寧体と普通体			1
1	はじめまして	1. 自己紹介 (単独) 2. 自己紹介 (質問応答)	申込書	10
2	いくらですか	1. これは何ですか 2. 店で		6
3	どこですか	1. 本屋はどこですか 2. 店で		11
4	何時ですか	1. 電話 図書館は何時から何時までですか 2. 何時に起きますか 3. 何時から働きますか		8
5	誕生日はいつですか	1. メイさんの1週間	私の1週間 動詞～ます形 (表)	10
6	どうやって行きますか	1. いつ日本へ来ましたか 2. このバスは動物公園へ行きますか 3. ポートタワーはどこですか	うちから大学まで どうやって行きますか	11
7	一緒に映画を見ませんか	1. きょう何をしましたか 2. いっしょに昼ご飯を食べませんか	動詞～ます形 (表) わたしの1日	10
8	千葉はどんなところですか	1. 奈良はきれいですか 2. ジャカルタはどんなところですか	わたしの国	8
9	何が好きですか	1 . In Safety and Health Organization	(※診療申込書)	11
10	コーヒーを2つください	1. お正月に子供に何かあげますか 2. レストランで (注文)	助数詞	10
11	名前を書いてください	1. スミスさんのメール・アドレスを知っていますか 2. ご家族は	わたしの家族	12
12	このコンピューターを使ってもいいですか	1. ちょっとよろしいですか	動詞～ます形、 て形、辞書形	7
	索引			7
				124

るように空欄を含む会話文を掲載している。クラスでは、モデル会話で場面理解の確認を行い、空欄に書き込んだものを使用しながら会話練習ができるようになっている。「書き

ましょう」では、学習項目を使って、自分について日本語で書く練習ができるようになっている。教科書に直接書き込む方式になっており、1 週間の予定や自分の国、家族についても書く練習ができるようになっている。「Reference Words & Information」では、自分に必要な情報を選び出して使うことができるようになっている。「文法解説」では、英語による学習項目の解説があり、授業の予習、復習に活用できるようになっている。

表 3 第 1 課の構成

課の構成	第 1 課	
文型	4 例	
あたらしいことば	25	
練習	1～7	訳付き語彙（16）
会話	自己紹介（単独） 自己紹介（質問応答）	
書きましょう	申込書	
Reference Words & Information	学部・研究科 数字（1～50） 名前（苗字） 住所と電話番号 国・人・ことば	
文法解説		

4.2 文法項目

文法項目は、それぞれの課の「文型」で例文として、3～4 例ずつ示している。表 4 は、第 1 課で扱っている文法項目と主な文型である。

表 4 第 1 課文法項目と文型の比較

第 1 課	『みんなの日本語』	『にほんご』
文法項目	N1 は N2 です N1 は N2 じゃありません S か N も N1 の N2 (所属)	N1 は N2 です N1 は N2 ではありません。 S か N も N1 の N2 (所属)
	N も	お or ご ～からきました そうですか
主な文型	わたしはマイク・ミラーです。 サントスさんは学生じゃありません。 (では) キラーさんは会社員ですか。 サントスさんも会社員です。	わたしはダニエルです。 ワンさんは研究生ではありません。 (じゃ) わたしは千葉大学の学生です。 こちらは山田さんです。

『みんなの日本語』と『にほんご』を比較すると、文法項目のほとんどが類似している。

これは、第1課であることが大きく影響している。異なる点は、自己紹介のときに使用する「～からきました」の表現やあいづち、「お」と「ご」の違いなどを扱っている点である。また、「N1はN2です」の否定の文についても「N1はN2ではありません」を使用し、丁寧な表現を採用している。これは、『にほんご』の中では丁寧体に統一した学習を進めるためである。

表5は、『にほんご』の各課のタイトルと文型を示している。60時間という限られた時間の中で扱うことができる文型は限られている。そのため、語彙の選定と同様、学生が自分自身を語るために必要なものを最優先し、学習者が教室外で日本語を使用する実際場面を想定して文法項目の選定を行った。

第1課では、所属を示す「千葉大学の研究生」、第2課では、属性（種類）を示す「日本語の本」、所有を示す「田中さんの傘」を扱っている。しかし、代名詞を用いて所有を示す「私の本」、「彼の本」や「私の（もの）」、「彼の（もの）」などは扱っていない。指示詞は、2課と3課で扱っている。2課で文脈指示、3課で現場指示である。しかし、文脈指示では「こそあ」のみで「ど」の扱いはない。このような文法項目の削除は、学習者の負担軽減を考えたものである。

第11課では、て形の導入を行っている。「～てください」と「～ている」（動作の結果の残存、状態）を扱い、「あたらしいことば」として、「知っています」「住んでいます」「持っています」「結婚しています」「勤めています」を導入している。12課では、動作の進行を示す「～ている」と「～てもいい」を扱っている。『みんなの日本語』では、動作の進行を示す「～ている」のほうを先に教えているが『にほんご』では、動作の結果の残存、状態を先に扱っている。

第12課では、辞書形を導入している。『みんなの日本語』では、18課で扱われているが、辞書をひけるようにするために、『にほんご』では最後の課で扱うことにした。

そのほかに、『みんなの日本語』では、電話番号の扱いは第4課であるが『にほんご』では、第1課で扱っている。これは、申込書を記入する際に、住所と電話番号を同時に扱っているためである。位置詞については、『みんなの日本語』では、第10課で扱われているが、『にほんご』では第3課で扱っている。それは、場所を尋ねたり買い物をしたりする際に必要だと考えたためである。また、存在文や「～てほしい」などは扱っていない。

『にほんご』では、主に『みんなの日本語』の15課までに扱われている項目を扱っている。『みんなの日本語』と『にほんご』の文法項目の詳しい出題比較は、資料1として示す。

4.3 語彙

語彙は、それぞれの課で「あたらしいことば」として約30語出している。表6は、『みんなの日本語』第1課の語彙と『にほんご』第1課の語彙を比較したものである。両教科書の第1課で新出語彙として扱われているのはそれぞれ25語である。これらの語彙は、共

表5 『にほんご』各課のタイトルと文型

課	タイトル	文型
1	はじめまして	1. わたしはダニエルです。 2. ワンさんは研究者ではありません。 3. わたしは千葉大学の学生です。4. こちらは山田さんです。
2	いくらですか	1. これはコンピューターです。 2. それは日本語の教科書です。 3. あの本は1500円です。
3	どこですか	1. ここは事務室です。2. 山田先生は教室です。 3. 時計はテレビの上です。
4	何時ですか	1. 今9時です。 2. 日本語の授業は8時50分から9時20分までです。 3. 6時に起きます。
5	誕生日はいつですか	1. 昨日は休みでした。 2. 月曜日に勉強しました。 3. 誕生日は6月2日です。
6	どうやって行きますか	1. わたしは東京へ行きます。 2. わたしは自転車で寮へ帰ります。 3. わたしは家族と日本へ来ました。 4. 寮から駅まで歩いて15分ぐらいです。
7	一緒に映画を見ませんか	1. わたしはスーパーで肉と魚を買います。 2. わたしはもう朝ごはんを食べました。 3. いっしょに映画を見ませんか。
8	千葉はどんなところですか	1. 山田さんは親切です。 2. 8月は7月より暑いです。 3. 富士山は日本で一番高い山です。
9	何が好きですか	1. リーさんはスポーツがとても好きです。 2. わたしはカメラがほしいです。 3. わたしはお寿司が食べたいです。
10	コーヒーを2つください	1. マリアさんは毎日家族に電話をかけます。 2. わたしは誕生日に母に時計をもらいました。 3. リーさんは郵便局で葉書を5枚買いました。
11	名前を書いてください	1. 名前を書いてください。 2. わたしは田中さんを知っています。 3. 父は銀行で働いています。
12	このコンピューターを使ってもいいですか	1. 今電話をかけています 2. このコンピューターを使ってもいいですか。

通語彙、他課新出語彙、非共通語彙に分けられる。共通語彙は、両教科書の第1課で共通して扱われている語彙で11語（わたし、～さん、～人、学生、研究者、先生、大学、一歳、何歳、はい、いいえ）ある。他課新出語彙は、『みんなの日本語』では第1課で新出語彙として扱われているが『にほんご』では他の課で扱われている語彙で4語（だれ、教師、会社員、電気）ある。非共通語彙は、『にほんご』では第1課で新出語彙として扱われているが『みんなの日本語』では他の課で扱われている語彙で7語（名前、何番、住所、電話番号、専門、留学生、研究室）ある。表6内の（ ）で示されている数字は、それぞれの教科書のどの課でそれらの語彙が扱われているかを示している。残りの語彙は、どちらか一方の教科書でしか扱われていない非共通語彙である。『みんなの日本語』では扱われているが『にほんご』では扱われないのは10語（わたしたち、あの人、皆さん、～ちゃん、～君、社員、銀行員、医者、エンジニア、病院）、『にほんご』では扱われているが『みんなの日本語』では扱われていないのは7語（～先生、研究生、大学院生、指導教員、チューター、学部、研究科）である。表6では、「こちらは～さんです」などの表現は除いている。

表6 第1課新出語彙の比較

	『みんなの日本語』	『にほんご』
共通語彙	わたし ～さん ～人 学生 研究者 先生 大学	一歳 何歳 はい いいえ
他課新出語彙	だれ (2) 教師 (11) 会社員 (11) 電気 (11)	名前 (14) 何番 (4) 住所 (14) 電話番号<電話 (3) 番号 (4)> 専門 (15) 留学生 (16) 研究室 (38)
非共通語彙	わたしたち 皆さん ～ちゃん あの人<あの (2) 人 (×)> ～君 社員 銀行員 医者 ⁽³⁾ エンジニア 病院	～先生 研究生 大学院生 ⁽⁴⁾ 指導教員 チューター 学部 研究科

『にほんご』では、大学に在籍している学生を対象としているため学内で自分がどのような身分なのかを示す「研究生」や「大学院生」、「留学生」などの語が第1課で必要となった。また、所属を示す「学部」や「研究科」、「指導教員」や指導教員の名前を言う場合の敬称「～先生」も必要となった。そのほかの「名前」や「住所」、「電話番号」などの語彙を含め、第1課自己紹介では、「自分」について語る、または書くことを目標としていることから、このような語彙が「あたらしいことば」として出された。このように、各課の語彙は、学生が実際場面で自分自身について語るために必要な語彙を最優先に選定した。各課の「あたらしいことば」で提示した語彙は、資料2にまとめた。

5. 2009 年度の日本語 101 の授業

2009 年度は、前期と後期では異なるカリキュラムで授業が行われた。また、受講した学生の人数や出身地なども異なる。以下に、説明する。

5.1 授業カリキュラム

日本語 101 は、週 2 回（月・木）の 1 限（8:50～10:20）に行われた。授業は、1 課を前半と後半に分け、2 回で 1 課を終わらせるように進められた。前半は、「あたらしいことば」の単語クイズを行った後「文型」を導入し、練習問題を行った。後半は、「会話」、「書きましょう」、reference words & information を行った。また、後半の授業の最後には、次の課のあたらしいことばをクラス全体で音読し確認をした。そして、各課が終了したときに B4 サイズ 1 枚の宿題を配付した。

2009 年度前期と後期では、表 7 のようにカリキュラムが異なる。

表 7 授業カリキュラム

2009 年前期	コマ数	2009 年後期	コマ数
『一人で学べるひらがなカタカナ』 ひらがな (3 コマ) カタカナ (3 コマ)	3 3	『かな』 (私家版) カタカナ (2 コマ) ひらがな (2 コマ)	2 2
『にほんご』 (11 課編成) 各課 2 コマ×11 課	22	『にほんご』 (12 課編成) 各課 2 コマ×12 課	24
復習	1	復習	1
テスト	1	テスト	1
合計	30	合計	30

前期は、『一人で学べるひらがなカタカナ』（スリーエーネットワーク）を使用した。付属 CD で自習することも可能であるためである。しかし、学習内容が多く、かな学習に 3 週間かかる。そのため、学習者の負担を考慮し、このクラスでは説明などを極力減らし、練習を重視したかな教材の方がふさわしいとの考え、後期はかな学習で使用する教材を『かな』（私家版）へ変更した。また、後期はカタカナ学習を先行させた。理由については、5.3.1 かな学習の成果で述べる。

5.2 受講学生

表 8 と表 9 は 2009 年度に日本語 101 を受講した学生の内訳を示している。学生は、前期 7 名、後期 11 名であり、出身も身分もさまざまである。前期は、男性 4 名（バングラデシュ、フランス、ドイツ、マレーシア）、女性 3 名（中国、イタリア、スウェーデン）だっ

た。後期は、男性4名（インドネシア、バングラデシュ、中国、マレーシア）、女性7名（インドネシア4、タイ2、イラン）だった。

表8 2009年前期受講学生

性別	出身地	大学院生	研究生	研究者	短期留学生 及びその他
男	バングラデシュ			1	
	フランス			1	
	ドイツ			1	
	マレーシア	1			
女	中国			1	
	イタリア		1		
	スウェーデン			1	
小計		1	1	5	0
合計		7			

表9 2009年後期受講学生

性別	出身地	大学院生	研究生	研究者	短期留学生 及びその他
男	インドネシア		1		
	バングラデシュ		1		
	中国	1			
	マレーシア		1		
女	インドネシア		4		
	タイ				2
	イラン		1		
小計		1	8	0	2
合計		11			

5.3 授業実践

日本語101で実際に行われたかな学習と第1課の授業実践について、以下に説明する。

5.3.1 かな学習の成果

2009年前期は、既存の教科書『一人で学べるひらがなカタカナ』を使用した。この教科書は100ページ以上あり、週2コマの授業時間だと、終わるまでに6コマ、3週間かかっ

た。学習者にとっても作業量が多すぎ、意欲が続かないという問題があった。このため、後期に向け、作業量を削減し、4 コマでかな学習が終わる新たな教材『かな』（私家版）を開発し、使用した。この教材では、かたかな学習が先行している。このような変更の結果、かたかな学習に対する抵抗が軽減し、ひらがなを含めたかな習得の負担を減らすことができた。自分の名前や国名を書くことができるようになることが明確な目標となったためだと考えられる。また、クラスメイトの名前や国名を書く練習も行った。長音については、かたかな学習の段階では日本語の「長音」を知ることにとどめ、次のひらがなの段階で、書き分けを学習するという二段階にしたため、学習者の負担が軽減された。促音については英語による説明を付けた。その後のひらがな学習では、ひらがなを学習しなければ教科書が読めないため、それが学習の目的となり学習が進んだ。かな習得は、学習者に任されている部分が多いが、学習目的を明示することで学習がスムーズに進んだと考えられる。

5.3.2 授業実践（第1課）

第1課前半は、「あたらしいことば」の単語クイズと新しい文型の導入と練習である。単語クイズの後、「わたしは～です」などの文型を導入し、語彙の入れ替え代入方式で練習をした。その後、ペアで質問応答練習などを行った。

第1課後半は、「会話」と「書きましょう」である。文型の確認、練習の後、「会話」で、自己紹介の練習をした。クラスや歓迎会など複数の前で自己紹介する場合と、初対面の人との質問応答の場合のモデルが教科書には載っている。会話はモデル会話の理解の後、それぞれの学生が自分についての情報を空欄に書き込み、ペア練習を行った。まず、自己紹介で、名前や出身地だけでなく、所属や専門、指導教員の名前などの言い方も練習した。「書きましょう」では、申込書を書く練習をした。ここでは、申込書を使って自分の住所や生年月日などの書き方を学び、所属している学部や研究科、指導教員の名前も日本語で書く練習をした。これは、学内の事務室での事務職員とのやり取りを想定しているものである。学習者の中には、住所を知らない学生やローマ字で書かれたものを持ち歩いている学生がいるが、日本の住所の書き方や電話番号の読み方などの指導も行い日本語で言えて、書けるように練習した。

前期の『にほんご』では、「書きましょう」の申込書が2種類あった。しかし、第1課の時点では、学生から負担が大きいとの意見があった。そのため後期では、申込書を1種類にした。

5.3.3 授業実践の成果（第1課）

この段階で、自己紹介を暗記できる学生はほとんどいない。前期の学生は、自己紹介と申込書の2種類の書く作業があったため、負担が大きかった。そのため、自己紹介をローマ字などで記入し、それを覚えようとする学生がいた。後期は、申込書を1種類にしたた

め、自己紹介もひらがなで記入するように促した。負担を訴えた学生はおらず、自己紹介は覚えるために書き、申込書は書く練習と分けて意識されていた。学生は、テキストに書き込むことで自分にとって必要な語彙や文型が顕在化しやすかったと考えられる。また、第1課からクラスメイトの前で自己紹介の練習をしたり、お互いに質問応答練習をしたりする活動をした。このことは、その後の学習に影響を与え、クラスメイトとのインターアクションが通常化し、自ら日本語で発信することを求める授業参加の態度が観察された。例えば、ペア練習中に教師に自分の場合にはどうなるのかを確認したり、練習相手を意識的に代えて実際場面に近づけた練習をしたりする姿勢が見られた。

5.3.4 学習者の変容

日本語 101 では、それぞれの課で自分の情報を扱う活動を多く行った。語彙については、実際場面で使用できる語彙が選定されているため、学習者が意欲的に学ぶ姿勢が見られた。例えば、4課の「あたらしいことば」では自動詞のます形を扱っているが、「勉強します」「研究します」の他に「実験します」を加えた。また、7課の他動詞のます形では「お祈りをします」を加えた。『みんなの日本語』では、実験が47課、お祈りが18課で初出である。しかし、ある学習者にとっては、どちらの語彙も自分を語るのに必要不可欠であった。これは、本教材開発の最も重要な部分である「自分を語る」ために必要な語彙選定が有効に働いたと考えられる。

また、「会話」や「書きましょう」では、「自分を語る」練習を繰り返すことでクラス内にインターアクションが生まれた。このことは、教室が「教師から学ぶ」場のみならず、「相互理解と協力」の場である「you 世界」（相互に二人称的關係でかわり、互いが相手を「理解 (appreciation)」しあうような世界）として機能していたことを示している。また、学習者は、自分自身について語るだけでなく、テキストに書き込むことで個人的リソースを積み重ねていった。そのため、テキストは学習者にとって教室外の実実際場面でも役立つハンドブックとなった。

本稿は、2期の授業実践の報告であるため、明確な有効性を示すことはできない。しかし、実践の成果や学習者に対するアンケートから、本授業の目的は果たされたと考えられる。また、最初の数課は、自分について語るために必要な語彙を習得するのも難しいが、課が進むに連れて定着していく。それは、クラス内で「自分を語る」ことを繰り返すクラスメイトとのインターアクションが効果的に作用しているからである。

6. 終わりに

2009年度後期の受講者からは、継続クラス開講の強い要求があった。しかし、日本語 101 の学習内容は、あくまでもサバイバル的な日本語にとどまっている。そのため、さらにレベルの高い日本語の学習を続けるためには、『にほんご』では扱っていない初級の語彙や文法項目を体系的に学習する必要がある。そのため、次の段階の新たな到達目標を設定

定し、文法項目、語彙を選定した教材開発をすることは容易ではない。また、漢字をどのように扱うかについても検討する必要がある、現時点では新たにカリキュラムを開発する予定はない。

なお、現在、「日本語 711」(東葛キャンパス：初級 1 レベル)でも『かな』を、また、亥鼻キャンパスの「初級 1」でも『かな』と『にほんご』を使用していることを記しておく。

注

- (1) 出入国管理及び難民認定法で定められている「留学」という在留資格により、日本の大学等において教育を受ける外国人留学生をいう
- (2) 千葉大学データ http://www.chiba-u.ac.jp/general/data/statistics/data_19.html 外国人留学生数(平成 22 年 5 月 1 日現在)
- (3) 医者とは、『にほんご』の第 9 課の「会話」で訳付き語彙として扱い、「あたらしいことば」としては提示されていない。
- (4) 大学院生は、『みんなの日本語』第 31 課で大学院が新出語彙として扱われている。しかし、大学院生という語彙は扱われていない。

参考文献：

佐伯胖・藤田英典・佐藤学編(1995)『シリーズ学びと文化① 学びへの誘い』 東京大学出版会
縫部義憲(1991)『日本語教育学入門』 創拓社

教材を開発する際に検討を行った日本語教科書：

国際日本語普及協会(1984)『Japanese For Busy People I』講談社インターナショナル
スリーエーネットワーク(1998)『みんなの日本語 初級 I 本冊』
星野恵子・辻和子・村澤慶昭(2000)『日本語 90 日』UNICOM
和歌山大学国際教育研究センター(2008)『クリスの和歌山大学留学』

* 本稿は 2010 年 7 月 31 日 2010ICJLE(2010 世界日本語教育大会)において行った口頭発表「サバイバル日本語の教材開発と授業実践」(林里香・佐藤尚子・小林佳代子)の内容に補足・修正を加えたものである。

資料1

表1『みんなの日本語』と『にほんご』の文法項目出題比較

	『にほんご』	『みんなの日本語』
1	N1はN2です N1はN2では(じゃ)ありません Sか N1のN2(所属) こちらは～さんです 電話番号は～です	1、4
2	これ/それ/あれ このN/そのN/あのN N1のN2(内容説明・所有)	2
3	ここ/そこ/あそこ/こちら/そちら/あちら N1はN2(場所)です どこ/どちら N1のN2(国名・会社名、製の～) こ/そ/あ/ど お国 N1(物・人・場所)のN2(位置)	3、10
4	今一時一分です ～から～までです Vます Vます/Vません N(時)にV N1からN2まで	4
5	曜日 誕生日は一月一日です Vました/Vませんでした N1とN2 いつ	4、5
6	N(場所)へ行きます/来ます/帰ります どこ[へ]も行きません/行きませんでした N(乗り物)で行きます/来ます/帰ります N(人・動物)とV どのぐらい ～ぐらい	5、11
7	もうVました NをV(他動詞) Nをします 何をしますか 「なん」と「なに」 N(場所)でV Vませんか Vましょう	6、7
8	形容詞 Nはな-adj.です Nはい-adj.です な-adj.なN い-adj.(～い)N とても/あまり Nはどうですか N1はどんなN2ですか S1が、S2 どれ N1はN2より形容詞です N1とN2とどちらが形容詞ですか…N1/N2のほうが形容詞です N1[の中]で何/どこ/だれ/いつがいちばん形容詞ですか…N2がいちばん 形容詞です	8、12
9	Nがわかります Nが好きです/嫌いです/上手です/下手です どんなN よく/だいたい/少し/あまり/全然 Nが欲しいです Vます形たいです	9、13
10	数量の言い方 N(人)にあげます N(人)にもらいます等	7、11
11	Nがあります Vの活用・Vのグループ Vて形 Vて形ください Vて形います(状態・身分・職業) S1が、S2 NがV	9、14、15
12	Vて形います(継続中の動作) ～てもいいです 辞書形	14、15、18

資料2

表2『にほんご』で扱っている語彙

課	あたらしいことば	訳付き語彙	Reference Information
1	わたし ～さん ～先生 ～人 学生 留学生 研究生 大学院生 研究者 指導教員 先生 チューター 大学 学部 研究科 研究室 専門 名前 住所 電話 番号 一歳 何歳 何番 はい いいえ こちらは～さんです	はじめまして ～からきました どうぞよろしくお願いします そうですか お or ご フリガナ 性別 男 女 年 月 日 生年月日 年齢 国籍 学生証番号	千葉大学の学部大学院 数字 (1～50) 名前 (苗字) 住所と電話番号 国・人・ことば
2	これ それ あれ この その あの だれ だれの いくら 一円 日本語 英語 本 教科書 辞書 ノート 紙 ボールペン 鉛筆 消しゴム 机 椅子 時計 かばん テレビ カメラ コンピューター 傘 鍵	あのう どうも 店 店員 いらっしゃいませ ～はありますか こちらです じゃあ ～をください	数字 (50～100000)
3	ここ そこ あそこ どこ こちら そちら あちら どちら 教室 講義室 演習室 事務室 ～室 食堂 図書館 本屋 ～屋 トイレ 階段 建物 一階 何階 上 下 中 前 近く 奥	携帯電話 レジ 入り口	一階 西千葉キャンパス お店マップ 大学案内図 西千葉キャンパス 亥鼻キャンパス 松戸キャンパス
4	一時 一分 半 今 午前 午後 朝 昼 晩 夜 ～から ～まで 起きます 寝ます 働きます 休みます 勉強します 研究します 実験します 始まります 終わります 授業 昼休み デパート スーパー 郵便局 銀行 ミーティング 仕事	東京 ロンドン 北京 ニューヨーク ソウル 夕方	一時 一分 午前 午後 ～ます ～ません
5	誕生日 休み アルバイト 月曜日 火曜日 水曜日 木曜日	1週間 研究	～ました ～ませんでした

	金曜日 土曜日 日曜日 何曜日 昨日 今日 明日 先週 今週 来週 先月 今月 来月 去年 今年 来年 ～と～ いつ		年月日 Months Days Time Words
6	行きます 来ます 帰ります かかります うち 寮 駅 空港 コンビニ 公園 博物館 美術館 車 飛行機 船 電車 地下鉄 モノレール バス タクシー 自転車 歩いて 友達 恋人 家族 一人で 一時間 ～ぐらい どのぐらい どうやって	パリ シドニー バンコク ベ ルリン シャンハイ あさって 動物公園 (千葉市動物公園) 運転手 一番線 ポートタワー いいえ それから 花の美術館 海	千葉市の観光地図 千葉県の観光地
7	食べます 飲みます 見ます 聞きます 読みます 書きます 買います お祈りをします します もう まだ ご飯 朝ご飯 昼ご飯 晩ご飯 パン 肉 魚 野菜 水 お茶 コーヒー ビデオ 映画 音楽 手紙 レポート 部屋 いっしょに	ええ ～はどうですか てんぷら 会います わかりました すみません ～はちょっと… 残念ですね また今度お願いします 宿題	食べ物 飲み物
8	山 所 きれいな 有名な 親切的な 便利なの 静かな 暇な 新しい 古い 高い 安い 忙しい おいしい 面白い 大きい 小さい 遠い 近い 難しい 易しい 寒い 暑い 速い どう どんな～ いちばん～ ～より～	トマト クラス 韓国料理 にぎやか キムチ 辛い	な形容詞 い形容詞
9	わかります 好きな 嫌いな 上手な 下手な 欲しい 料理 飲み物 食べ物 果物 スポーツ テニス ダンス 歌 絵 (お) すし 字 漢字 ひらがな	カラオケ アニメ クラシック 軽い 受付 書いてください 医者 (お) 薬 呼びます お待ちください/待っていてく ださい どうぞ	音楽・スポーツ・映画 身体 of 名称 病気の症状 診療申込書

	かたかな ローマ字 研究所 将来 とても あまり よく だいたい 少し 全然	どうしましたか 薬を出します おととい	
10	送ります あげます くれます もらいます 貸します 借ります 出します かけます 花 プレゼント 荷物 お金 チケット 切手 はがき 一つ とお いくつ 一枚 一本	りんご シャツ バナナ もうすぐ お正月 子供 何か 母の日 カーネーション かしこまりました ケーキ ハンバーガー コーラ カレーライス ジュース	家族 数助詞 メニュー
11	あります 見せます 急ぎます コピーします 手伝います あけます 閉めます つけます 消します 待ちます 知っています 住んでいます 持っています 結婚しています 勤めています パスポート ドア 電気 独身 会社 会社員 主婦 教師 高校 高校生 数学 約束 ゼミ 一人 (にん) ちょっと	メール・アドレス います デ ザイン サンフランシスコ 上の 下の バスケットボール	て形の作り方 助数詞 職業
12	使います 取ります 座ります 吸います 止めます 資料 写真 窓 たばこ	だめです 駐車禁止 撮影禁止 禁煙 ちょっとよろしいですか よろしい 今はちょっと また後で来ます 実は	辞書形の作り方